

第2回池田町農業振興協議会 会議要旨

日時：令和4年9月14日 午後1:30～午後3:30

場所：池田町 役場庁舎 2階大会議室

・出席者(敬称略)

○委員9人：宮澤敏文、北原富裕、鈴木正幸(リモート参加)、矢口新平、片瀬善昭、櫻井康人、中山眞、立岩満、小田切隆

○アドバイザー2人：佐藤源彦、小林照男

○町長：甕聖章

○事務局(振興課)3人：大澤孔(課長)、丸山佳男(農政係長)、丸山智史(同係主事補)
進行：大澤課長(事務局長)

1 開会(大澤課長)

2 会長あいさつ(宮澤会長)

果実の視察を受けて本格的な議論に入るが、事務局の会議、県のアドバイザー会議を含めて、既に10回を超える会議を事前に行い資料等々の作成に努めている。

本日も豊富な内容が資料として提出し、有意義な議論になるようお願いしたい。

3 協議(進行：宮澤会長)

(1) 報告

①9/7先進地視察(丸山係長)資料1を説明

宮澤会長

清里は池田町同じ規模の農地を抱えているが、池田町より少ない経営体に農地が集積された農業となっており、それと同時に行政が公社を作り農福連携や新たな担い手の育成に取り組むなど学ぶべき点が多い。

池田町は今後複合経営が問題になるが、水稻以外での耕作の面積が大きくないため複合経営が出来ていない。

農薬については、過去に使われていたものから現在使われている農薬の性質についての話があった。

(2) 国の戦略等について

①みどりの食料システム戦略について(佐藤アドバイザー)資料2を説明

宮澤会長

みどりの食料システムは最近発表されたことから、理解をするのがとても難しい。県内でも既に手を挙げている市町村もあるので、池田町にも進めてもらいたい。オーガニックビレッジ宣言に向けて有機農業指導員の育成などの活動を県で始めている

中山委員

オーガニックビレッジ宣言は甕町長の方針の中で合致するので、行政側でリードして県や国に申請を上げていく方向でまとめてもらいたい。

宮澤会長

この宣言をするには、職員だけではなかなか難しいので、大局的にこれを整備して進めないといけない。

(2) 国の戦略等について

③産地生産基盤パワーアップ事業について (佐藤アドバイザー) 資料5、6を説明

宮澤会長

各町村長さんでこれからの農業をどうするか考えた時に、米が相当厳しい状況にあり、米プラス新たな産物を検討してきた。

農協の生産体制と組むと、農協からも半分補助が出るので、全て苗木等々は無償で取りかかれるという状況を産地パワーアップ事業で準備している。

(2) 国の戦略等について

②農産漁村発イノベーション等整備事業について (小林アドバイザー、佐藤アドバイザー) 資料3、4を説明

宮澤会長

今県で6回にわたり会議を行いこの社口原については、この都市と農村の事業のメニューを今の状況で使えると結論が出た。

農業媒体とするなら、ホテルの建設可能であるという結論を町長に伝えた。

中山委員

社口原における交流施設の可能性は、農産漁村の活用もあるということで十分に理解している。今後進める場合は途中で挫折せず完結してほしい。

(3) 中間答申に向けた課題の検討

②『作付け品目』の問題 (丸山係長) 資料7を説明

お米の現在の状況について (佐藤アドバイザー) 追加資料を説明

宮澤会長

米の値段が上がらず、来年以降も10万tずつ消費が減り、価格が厳しくなる見通しで理解していいか。

佐藤アドバイザー

はい。

宮澤会長

池田町の農業振興のために池田町はこれから複合経営をやるべきと考えている。

池田町の農業振興についてどのように考えているのか。

片瀬委員

池田町の農業は若い人が入らず、高齢化が進んでる。複合経営の認識あるが具体的な取り組みや品目の選定はしていない。

立岩委員

お米の価格の問題は非常に大きな問題になっていると認識している。

複合経営については、育苗ハウスを使いトマトやきゅうりなどの取組みが一部で見られる。農協としても、農協の水稲＋園芸の作物の取組みをもっと推進していかないと考えている。

小田切委員

池田町はこれから中山間地域をベースにすると考えており、山際の害虫対策も踏まえ桃よりぶどうの方が可能性が高いと考える。

野菜類の導入は労働力確保の観点から個人経営では難しいので、法人組織がこれからの時代に求められる。

1 つ共通して言えるのは個人でも団体でも最終的には誰がというところで一番の課題になると思っている。

鈴木委員

色々な品目をやっていくのではなく、ある程度品目を絞り導入しないと産地としても非常に厳しくなる。

作業時間、排水状況などの土壌条件、出荷量の確保など検討し選定する。また、技術支援体制も重要。

櫻井委員

池田町ファームは4つの営農組合が合併した組織で、一本化が出来ないと認識している。

高収益作物として、玉ねぎ、そば、西洋わさびを栽培しているが、手作業が多いので、縮小している。

現状、複合経営について考える人はまだまだ出てこない。

鈴木委員

池田町の農業経営を検討する場合、池田町内の担い手の課題を分析し、大規模経営体と自給的農家を区別して考える必要がある。

大北地域の農家は周りと同じ作物や経営を行う気質があるので、複合経営をいかに根づかせることが重要。

矢口会長代行

池田町の農産物の販売について工夫が必要。

担い手が工夫を凝らして販路を開拓すれば、農産物を高く売れることにつながりやる気も出る。

宮澤会長

これからの農業では法人経営による地域貢献や複合経営がとても重要だと認識した。

次回は、中間答申に向けた内容の素案をまとめていきたい。

北原委員

社口原の農地の管理や遊休荒廃化しないように対策を講じることが重要になる。また、新しい法人の検討や池田町ファームの農地維持についての役割を担っていくことについての検討を進めたいので、公社がこれからの課題について検討することを協議会として了解をい

ただきたい。

宮澤会長

農業振興協議会で中間答申をするまでは、待っていただきたい。

(4) 今後のスケジュール(大澤課長)

①意見交換会：10月8日(土)18:00～ 役場庁舎2階大会議室

②第3回意見交換会：10月20日(木)13:30～ 役場庁舎2階大会議室

③第4回意見交換会：11月4日(金)13:30～ 役場庁舎2階大会議室

中山委員

意見交換会の形式と内容について教えてください。

大澤課長

協議会主催という形で農業の経営されてる方の意見を聞く

4 その他(丸山係長)

委員報酬・費用弁償について説明

5 閉会(大澤課長)